

東京理科大学ワンダーフォーゲル部 OB 会 50 周年記念イベント
南アルプス南部縦走記録

日 時：2010 年 8 月 7 日～8 月 11 日

ルート：榎島～聖平～聖岳～赤石岳～赤石小屋～榎島

メンバー：Leader 和久井清(s49)

OB 会 50 周年記念イベントである南アルプスも赤石岳まで縦走され、残るは南部となり、聖平～赤石岳間を担当することとした。本来ならば赤石岳から続きを縦走するのだが、単独行も寂しいので、聖平から茶臼岳を担当する高橋(s50)と日程が合致したので、聖平から南北に分かれて縦走することとなった。

南アルプス南部は現役 3 年時の夏合宿以来であり 38 年ぶりにもなるうか。

現役 1 年時の夏合宿は南アルプス全山縦走であったが、ある事件がもとで百間洞で中断となった経験があり、今回のコースを選択した。

天候には恵まれなかったが、単独かつテント山行で充実した山旅であった。

< 8 月 8 日 >

聖岳登山口(6:45)～聖平 C1(13:35)

前夜は横浜を 3 時に高橋車で発ち、畑薙臨時駐車に 7:40 着。すでに 8 時発の東海フォレスト送迎バスの行列ができていた。定員になったバスは定刻前でも発車していた。そのうちの 1 台がパンクして発車できずにいたハプニングもあった。我々は予定通り 9:10 発のバスで榎島へ行き 1 泊し十分に休養をとった。榎島は初めてで、施設も整い 2, 3 日のんびりとキャンプしたい様な良い場所であった。

さて、6:30 発の東海フォレスト送迎バスで聖岳登山口へ向かう。

聖平までは高橋夫妻(夫 s50、妻 s49)&娘さんとワイワイとゆっくり登った。樹林帯が切れると懐かしの聖岳が見えた。そこで大休止。テント場確保のため高橋パーティーと別れ先行することにした。高橋 P は約 1 時間遅れで到着。さっそくビール、酒を購入手入山祝いとなった。そうこうする内に雨が降り出し、お開きとなった。雨は朝まで降り続いた模様。



<8月9日>

C1(6:20)～聖岳(9:04)～兎岳避難小屋(10:55)～中盛丸山(13:24)～百間洞 C2(14:22)

高橋P(父と娘)は本日の行程も長いので、先行して聖岳に向け出発した。雨で様子見している内に雨も上がり早々に準備して高橋Pを追い、頂上で合流し記念撮影。

ここで高橋Pと別れ百間洞へ向かった。ガスで視界悪し。ここからは単独でもあり雨の中を黙々と歩くのみ。途中は昼飯のラーメンも作れず兎岳避難小屋を目指した。避難小屋に到着しやっと昼飯にありついた。この避難小屋は現役2年の時にも台風で1泊した経験があるが当時は雨漏りがひどくビニール袋をかぶって寝た記憶があり、小屋の裏に小キジが出た時に黒百合を初めて見て感動したことははっきりと覚えている。現在は雨露がしのげるものであった。建っている場所等も記憶とは違っていた。なにせ約40年前のことですから。雨で靴もぐずぐず、さらに腰も痛くなってきた頃、百間洞山に家に到着。

小屋のお兄さんに明日の天気はどう？と聞くと台風が来ているからどうかなーの返事。

小屋泊まりの誘惑に負けずにテント場へ。酒とビールを買ってご苦労様。

テント場は事前に受付して場所の指定を受けるシステム。



<8月10日>

C2(6:20)～赤石岳(8:40)～赤石小屋(11:51)～樫島 C3(15:25)

夜間は冷えてテント内はびっしりと結露していた。外をみると満天の星だった。

今日は荒川経由か樫島かは赤石岳で決めようとして出発した。

百間平からは聖岳の雄姿、兎岳から大沢岳もぼっちりで嬉しくなる。

しかし赤石岳に着く頃は雲が低くなり始めた。頂上では携帯(docomo,au)が使えて、河合に樫島へ向かうことをメールして下山開始。途中はお花畑が綺麗で花の写真を取りながら下った。そうこうする内に雨が降り出し、赤石小屋は素通りで先を急いだ。

雨は土砂降り、さらに雷も鳴り響く頃にやっと樫島に到着。

迷わずにロッジ泊まりにする、風呂に入り4日ぶりに着替え極楽極楽。

しかし腰が痛く寝返りもままならず・・・



<8月11日>

C3(10:30)～畑薙第1ダム(11:30)

高橋Pを待つが現れず。14:25 発のしずてつバスで静岡駅へ。

(高橋Pは前日に下山していた)



<最後に>

高橋Pと畑薙第1ダムで合流できなかったのは残念だったが、まだまだ頑張れそうな実感を得た山行でした。あとは畑薙第1ダムからのリレーマラソンをOBの方々と楽しんで50周年を迎えたいと思います。

2010.08.12 記 和久井